

農学生命科学部

第6回 研究推進セミナー

【第25回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

生殖工学を駆使して見えてきた卵の機能と生殖のメカニズム

演者:尾畑 やよい 先生

東京農業大学 バイオサイエンス学科

動物発生工学研究室 教授

日時:平成28年10月 7日(金)

17:40~19:10

場所:弘前大学農学生命科学部402室



ほ乳類において、生殖細胞は次世代を作り出すことのできる唯一無二の細胞です。しかし、その生殖細胞の分化機構や生殖細胞の能力を保証する分子については、まだまだ謎だらけです。特にほ乳類の卵母細胞は、1) 出生後に増殖しない、2) 動物種固有の性周期と排卵数で決まった数の成熟卵しか産生できない、3) 着床までの胚発生を牽引しなくてはならないなど、同じ生殖細胞でも精子より生殖コストが格段に高いと言えるのではないのでしょうか。

私たちの研究グループでは、核移植や体外培養などの生殖工学技術を駆使することによって、卵母細胞の能力を如何に引き出して生殖資源として有効利用できるかチャレンジしています。また、そのチャレンジの過程で生殖細胞(特に卵母細胞)に必要な機能とは一体どのようなものかを解析しています。

本セミナーでは、生殖工学技術により私たちが明らかにしたsperm factor(s)に関する知見やゲノムインプリンティング機構に関する知見を紹介させて頂くと共に、最近、新たに開発された成熟卵を産生する体外培養系の将来展望について議論を深めたいと思います。

主催:農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也(内線3587 kobkyram@hirosaki-u.ac.jp)

共催:研究推進委員会 学部後援会